

東京出身の世代別外来語の アクセントの比較分析

- JLPT 語彙を中心に -

鈴木美恵*

崔英淑**

(e-mail : mie927@naver.com · yschoi33@cnu.ac.kr)

<目次>

- | | |
|------------------------|--|
| 1. はじめに | 4. 分析結果 |
| 2. 先行研究 | 4.1. 『NHKアクセント辞典』(2015)におけるモーラ別の
外来語アクセント |
| 3. 研究対象と研究方法 | 4.2. 日本語母語話者の外来語アクセントの生起 |
| 3.1. インフォーマントならびに分析対象語 | 4.3. 日本語母語話者の発音に見られるアクセントのゆれ |
| 3.2. 分析方法 | 5. 結論 |

キーワード：日本語母語話者 (Japanese Native Speaker), 東京方言(Tokyo dialect), 外来語アクセント (Loanword Accent), 平板(Heiban), 非平板化(Non-flattering), アクセント核(Accent nucleus)

1. はじめに

日本語の外来語の単純語および複合語には、モーラ・音韻配列によって、アクセントにある程度の規則性が見られる¹⁾。東京方言のアクセントの特徴の一つとしてアクセントの平板化²⁾が進んでいる。この現象は、本来アクセント核を有していた語彙が、ある要因によって

* 忠南大学校 大学院 日語日文学科 博士課程 音声学。

** 忠南大学校 人文大学 日語日文学科 教授 音声学 (交信著者)。

1) 秋永一枝(2015)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂, pp.16-23.

2) 外来語アクセントに現れる平板化の要因として第一に、日本語の外来語は、業界用語の一般化が進むにつれ、共通語のアクセントにおいては、アナウンサーを中心とした「専門家によるアクセント」、報道機関などからの「外来語の略語化」、若い人による「外来語アクセントの平板化」が見られる。第二

伝統的なアクセント体型が平板化することである。しかし、坂本(2005)では、名詞アクセントについて「未知の外来語は0型に発音する傾向が見られないわけではないが、無意味語アクセントの傾向の分析から外来語が増加することによって、0型アクセントが急増することはない。また、若年期からの英語学習が進み、原語アクセントの影響によって、4拍までは、1型を中心に増加する可能性が大きく、特殊拍直前にアクセント核の来る型も増加し、5拍以上は、一般語と変わらずに—3型が増える。」と述べている。また、松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)では、「東京方言の外来語のアクセントは、特殊拍ではなく、特殊拍が属している音節全体に置かれ、そのアクセントによってもたらされる下降は、各音節の中心にある母音の直後に出現する。」として、語末から数えて—3拍目の拍を含む音節にアクセントを置くことを明らかにしている。

このように、外来語アクセントに関しては多くの先行研究が存在するが、本研究では、拙稿(2016)で考察した³⁾外来語を、東京出身の若年層と中年層の2世代のインフォーマントに発音してもらい、4冊の辞典間にゆれの現れた外来語を中心に考察する。本研究は日本語教育の現場にて、外来語のアクセント指導に有益な資料を提供することを目標とする。

2. 先行研究

東京方言の外来語アクセントの先行研究として、田野村(1999)では、基本的に原語アクセントの継承という分析をとりながらも、部分的に日本語側の音韻規則が適応されていると述べ、佐藤(2002)及びKubozono(1996)では、日本語内部の分析においてモーラという立場を取りながら部分的に、音節情報が加えられたりする。また、日本語側から規則を設定しながら、補助的に(母音挿入の有無など)原語の情報を参照する場合などがあると論じている。外来語アクセント核の研究には李(1992)の研究が見られるが、李(1992)では、1985年版のNHKアクセント辞典を調査し、2拍、3拍語は原則的で頭高型が大部分をしめ、4拍語以上は—3拍目に特殊拍やアクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語が多いため、—4型、—5型が多く現れている。また、古くから日本に流入し、日常

に、日本放送文化研究所(2015)では、「この若い人による外来語アクセントの最近の特徴として、頭高型アクセントを平板型アクセントに発音する傾向があり、さらに、コンピューター関連や音楽関連などの、ある分野に関係した人々にも専門用語の使い方に平板型の傾向が見られる。」と論じている。

3) 『日本語能力試験出題基準』の各レベルの語彙から外来語を抜粋し、『NHKアクセント辞典』(1993、2015)と『新明解アクセント辞典』(1994、2015)にゆれの現れた外来語のアクセント核を比較考察した。

生活で良く使われる語や縮約語が多いため、平板型が比較的多く、5拍語以上では外来語だという認識の高い原語には第1音節にアクセントを置く傾向が見られると述べている。また、李(2009)では「母音の無声化」⁴⁾についても述べている。「母音の無声化」について、松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)では、東京方言であれば、ゆっくりと丁寧に発音しない限り、「ナガサキシ、タカマツシ」の下線部は無声化する。それによって、その部分はアクセントのもたらす高いピッチの山を担えなくなり、アクセントの山が前のほうにずれて「ナガサキシ、タカマツシ」のようになると論じている。

日本語母語話者を対象にした外来語アクセントに関する研究では、坂本(2005)がある。この研究は、秋永一枝編(2001)『新明解アクセント辞典』(三省堂)を資料に、外来語アクセントの音節構造とアクセント型の関係を中心に考察し、無意味語アクセントの傾向の分析から外来語が増加することによって、「0型アクセントが急増することはない。また、若年期からの英語学習が進み、原語アクセントの影響によって、4拍までは、1型を中心に増加する可能性が高く、特殊拍直前にアクセント核の来る型も増加し、5拍以上は、一般語と変わらずに-3型が増える。」と述べている。

拙稿(2016)では、『NHKアクセント辞典』と『新明解アクセント辞典』の外来語のアクセントのゆれを比較調査するために、『日本語能力試験出題基準』の各レベルの語彙から抜粋した外来語を、NHK(1993)とNHK(2015)⁵⁾、明解(1994)と新明解(2014)の4冊の辞典に記載されているアクセント核を拍数別に分析した。この辞書別の分析調査では、2拍から5拍語の大部分が原則的に頭高型を示し、多くの差異は見られなかった。しかし、「NHK(2015)には、これまでの調査の結果がかなり定着した外来語についてのみ、外来語の平板アクセントも取り入れた。」とあるように、NHK(2015)は、新明解(2014)よりも平板型のアクセント表記が多く見られた。また、外来語の表記においても、新明解(2014)では「アメリカ」と記載している外来語をNHK(2015)では、「アメリカインディアン」のように、複合名詞の形に記載している。この結果、両辞典にはアクセントと表記にも差異が増加している。その要因としてみられるのは、新明解(2014)のアクセント辞典のインフォーマントは、東京方言話者のみを調査したアクセントを記載した辞書である。また、NHK(2015)のインフォーマントは、①アナウンサーで、放送で使用するのにふさわしいアクセントであるかの確

4) 母音の無声化とは、母音「い・う」が無声子音に挟まれた時、文の最後に位置した時に母音「い・う」の声帯の振動がなくなって、母音が無声化すること。日本語では、カ行音・サ行音・タ行音・ハ行音・バ行音の子音が無声子音。

5) ここからは『NHKアクセント辞典』はNHK、『新明解アクセント辞典』は新明解と表記する。

認の統計と、②インターネットによる一般人からのアンケート調査の統計から選抜された辞典と見られる。その結果、両辞典には、改訂のインフォーマント自体にも差異があることを示したわけである。そこで本研究は、拙稿(2016)で行った外来語のアクセント核の分析結果を資料として、東京出身の若年層と中年層の2世代のインフォーマントに発音してもらい、①東京方言のアクセントの特徴が世代別にどのように実現されているのか、②NHK(2015)のアクセント辞典のインフォーマントのアクセントに近いのか、または、③実際にNHK(2015)で述べているように平板化は増加しているかを分析し、世代別にアクセント核がどのように実現されているのかをNHK(2015)を基準に比較する。

3. 研究対象と研究方法

3.1. インフォーマントならびに分析対象語

実際に東京出身のインフォーマントはどのように発音を生成するのかを拙稿(2016)の分析結果と比較しながら述べることにする。日本語における外来語のアクセントの変化を分析調査するにあたって、東京都出身の女性(東京で生まれ、他の地域での生活歴のない20代の若年層2名と50代の中年層2名)をインフォーマントとした。

本稿の目的は実際に東京都出身の外来語アクセントの発音生成はどうであるか、各世代には差異が現れるかどうか、平板化の増加ならびに、母音の無声化が確認できるかを調査するためである。インフォーマントのうち、20代は大学生で、50代は日本語教師である。インフォーマントは表1の通りである。

<表1> インフォーマント

被験者	出身地	性別	年齢	職業
JF1	東京都	女	21 才	大学生
JF2	東京都	女	21 才	大学生
JF3	東京都	女	54 才	日本語教師
JF4	東京都	女	53 才	日本語教師

本研究では、日本語教育現場に必要な基礎資料を提供するため、調査対象語をJLPT出題基準の語彙から抜粋した。JLPT出題基準【改訂版】2006年3月の最終版

の語彙から、レベル別に抜粋した外来語⁶⁾の数を表2に示す。

〈表2〉 JLPT日本語の語彙レベル別外来語数

レベル	語彙全数	外来語の数	%	ゆれの外来語
4級	728	62	8.51	4
3級	1,409	45	3.19	2
2級	5,035	312	6.19	16
1級	8,009	210	2.62	17
合計	15,181	641	4.22	39

3.2. 分析方法

本研究では、表2のうちJLPT語彙のN1、N2の外来語を分析対象語と用い⁷⁾、インフォーマントに静かな教室で発音してもらい、録音し(SONY.PCM-D100)、その音声のアクセント核を聴聞しチェックした。

4. 分析結果

4.1. NHK(2015)におけるモーラ別の外来語アクセント

N1のモーラ別の外来語のアクセントを表3に示す。この表3は語末からアクセント核の位置を示したものである。

〈表3〉 N1のモーラ別の外来語アクセント

モーラ	ア核	個数	%	外来語の例

6) JLPT出題基準【改訂版】

- ・2006年3月の最終版のレベル別の抜粋した外来語のアクセントの調査を行った。2006年度最終版を参考資料としたのは、それ以降には改訂版が出版されていないためである。
- ・日本語能力試験は、1984年度に初めて実施され、国際的ならびにこの試験の社会的重要度も向上した。ただし、日本国内での教育課程はどの教科・科目においても学習指導要領を基準に行われるが、日本語能力試験においては各レベルに示されている認定基準を唯一の準拠として問題作成にあたるため、試験問題作成者の便宜を図る「出題基準」を作成する事になった。

7) JLPTのN1-N4の中でアクセント辞典の表記にゆれの現れた外来語が最も多かったためである。

2	-2	9	4.76	ジャズ、ショー、ソロ、ニュー、ネガ、バー、バス(お風呂)、 パパ など
	△	1		マイ(My)
3	0	4	38.6	アルミ、カレー、パンク、ボルト、
	-2	3		ドライ、ブルー、サボる
	-3	69		アップ、ガイド、ケース、カット、カップ、カルテ、キャッチ、 キャリア、クイズ など
	-3 (0)	4		データ、パート、バッチ、ファイト
	△	1		アラブ
4	0	14	28.0	アマチュア、アルカリ、インテリ、インフレ、コメント、ジープ など
	0 (-4)	3		タレント、チャンネル、フィルター
	-2 (-3)	1		バトカー
	-3	11		ウイルス、クレーン、スチーム、ストレス、など
	-3 (-4)	1		ガレージ
	-4	26		アクセル、オーケー、オープン、カクテル、コーナー、コンパ ス、オーバーなど
	-4 (0)	2		タイトル、メーカー
	-4	1		モーター ⁸⁾
5	0	5	16.2	アルコール、カンニング、スプリング、タイミング、レントゲン
	0*	1		ロープウェイJLPTに (ロープウエー)はNHK表記あり
	-3	12		アプローチ、アンコール、エアメール、エンジニア、オンライ ン、ストライキ など
	-3 (-2)	1		レンタカー
	-3 (-5)	1		カムバック
	-4	3		カテゴリー、コマーシャル、スラックス、
	-4 (0)	1		ドライバー
	-5	7		エレガント、コンテスト、セレモニー、タイムリー、ナンセンスなど

	-5 (0)	1		バッテリー(人)
	-5 (-3)	2		コンタクト、ユニホーム
6	-2	2	7.14	スポーツカー、ドライブイン
	-3	12		インターフォン、デコレーション、(キロメートル)、ガイドブック、コントロール、チームワーク、ベストセラー など
	-6 (-3)	1		コントラスト
7	-3	2	3.33	インターチェンジ、サンタクロース
	-3 (-4)	1		オートマチック JLPTにはある NHK表記あり
	-4	3		ティッシュペーパー、トランジスター、インフォメーション
	△	1		オートマティック JLPTにはある NHK表記なし
8	-3	1	0.95	コンタクトレンズ
	-4	1		インターナショナル
9	-4	1	0.95	デモンストレーション
	-5	1		ドライクリーニング
合計	-	210	100	-

上記の表3は、JLPTの外来語のN1のモーラ別のアクセント核の特徴を示した表である。本研究でのアクセント核の基準は、NHK(2015)のアクセント核の表記を資料とすることにした。『NHK編日本語発音アクセント辞典』は、その時代に、放送で使うのにふさわしいアクセントを改正の基準としていると判断したために用いたわけである。表3の表記「ア核」はアクセント核を意味し、「-2」は頭高で、「0・(-4)」は平板型と頭高の2つのアクセント核が表記されていることを意味する⁹⁾。「△」はNHK(2015)にアクセント表記がない語彙を示したものである。N1の外来語のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、3モーラ(38.6%)の-3型が69個、4モーラ(28.0%)の-4型が26個、5モー

8) NHK(1993)では、4モーラのモーテルは表記がなく、これをモテルと表記し、アクセント核は-3型(頭高型)で記載されている。

9) 「0・(-4)」の表記は、平板型と頭高の2つのアクセント核が表記されていることを意味するが、NHK(2015)9ページの「この本の使い方」に、「一語について、2種類、またはそれ以上のアクセントを示している語は、共通語アクセントが2種類またはそれ以上あることを示し、この場合には共通語アクセントとして、よりふさわしいと思われるものを先にした。また、新明解(2014)の4ページと初版の序では、若い人たちの使うアクセント、外来語の平板型は、《新は》高年層の使用する古めかしいアクセントは《古は》《もとは》と表記されて、純粹の東京の発音をとり上げた。」と説明している。

ラ(16.2%)の一3型が12個と、6モーラ(7.14%)の一3型が12個(16.2%)は同数であった。外来語の例は下記に示す。

- ① 3モーラの一3型の外来語の例:
アップ、ガイド、ケース、カット、カップ、カルテ、キャッチ、キャリアなど
- ② 4モーラの一4型の外来語の例:
アクセル、オーケー、オープン、カクテル、コーナー、コンパス など
- ③ 5モーラの一3型の外来語の例:
アプローチ、アンコール、エアメール、エンジニア、オンライン など
- ④ 6モーラの一3型の外来語の例:
インターフォン、デコレーション、キロメートル、ミリメートル、ガイドブック、コントロール、チームワーク、ベストセラー、など

表3の4モーラの「チャンネル」は一3拍目に特殊拍があり、アクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語であるため、一4型にアクセント核があると同時に平板型でもある。「タレント」、「フィルター」は語末から数えて一3拍目が特殊核ではないが、同アクセント核に語末から一4拍目にアクセント核があり平板型である。「アクセル」「カクテル」の場合は、クは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし一4拍目にアクセント核が来ている。「タイトル」も、語末から数えると一3拍目が特殊音ではないが、1つ前にずらし一4型と平板型アクセントになっている。この「アクセル」、「カクテル」は、クが無声音化し特殊音ではないが、1つ前にずらし一4型(頭高型)になっている。また、「アクセル」、「カクテル」、「タイトル」などのアクセントは、元々の英語の発音の影響を受けていると推測できる。この結果から、李(2009)、松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)の研究での「母音の無声化」について確認できた例である。

外来語の表記の部分では、4モーラの「モーター」は、NHK(2015)と新明解(2015)に表記され語末から数えて一4型であるが、NHK(1993)には、「モテル」だけが表記されアクセントの位置は一3型である。これも元々の英語の発音の影響を受けていると推測できる。その他に、「ユニフォーム」はJLPTは「ユニホーム」と表記されているが、両アクセント辞典では「ユニホーム」と「ユニフォーム」の2つの表記があり、両アクセント核は5モーラで、語末から数えて一5拍目と、一3拍目にアクセントを置き、また、「コンタクト」のアクセントも同様であると言える。この結果から、松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井

幸比古(2012)の研究で、「東京方言の外来語のアクセントは、特殊拍ではなく、特殊拍が属している音節全体に置かれ、そのアクセントによってもたらされる下降は、各音節の中心にある母音の直後に出現する。」ことが確認できた例である。次に、英語の [comeback]はカタカナ表記では、「カムバック」と「カンバック」の2つがある。アクセントは5モーラで、語末から数えて-5拍目と、-3拍目にアクセントを置く。英語の [ropeway]は、5モーラの平板型で、JLPTでの語彙表記では「ロープウェイ」と記載されているが、NHKでの語彙表記では「ロープウエー」と記載されている。また、英語の [transistor]は「トランジスター」と「トランジスタ」の2つの表記があるが、拍数は、6モーラと7モーラになり、「トランジスター」は語末から-4拍目に、「トランジスタ」は語末から-3拍目にアクセントを置く。このように外来語のアクセントは、日本に流入して、表記の基準は出版課程で決定され、年代別の調査の結果により、アクセントの改正も出版者によって基準が決定されているようである。5モーラの「カムバック」は-3(-5)であるが、「コンタクト」、「ユニホーム」は(-5)-3である。このゆれは、本稿の7ページの注9のように、「共通語アクセントとして、よりふさわしいと思われるものを先にした。」とあるように、「カムバック」は、語末から-3拍目で、「ユニホーム」は、語末から-5拍目にアクセントを置く例である。

N2の外来語のモーラ別の分析表を表4に示す。この表4は語末からアクセント核の位置を示したものである。

<表4> N2のモーラ別の外来語アクセント

モーラ	ア核	個数	%	外来語の例
2	-2	22	7.05	カー、ガス、ガム、ゴム、シャツ、ジャム、ゼミ、ゼロ など
3	0	9	38.46	コップ、タイヤ、バケツ、ピアノ、ページ、ベルト、ペンキ、ボーイ など
	0 (-3)	4		インク、パイプ、ボール、ボタン
	-3	94		ウール、オイル、オフィス、カード、カーブ、カバー、カメラ、カラー センチ など
	-3 (0)	7		グラフ、ダイヤ、パンツ、プラス、メール、モデル、レベル
	-2	3		スキー、スター、フリー

	-2 (-3)	1		ズボン
	△	2		アジア、インキ
4	0	24	34.29	アイロン、アルバム、アンテナ、オルガン など
	0 (-2)	1		ハンカチ
	0 (-3)	1		スケート
	0 (-4)	2		サンダル、メーター
	-2	1		コーヒー
	-2 (0)	1		ローマ字
	-3	24		アパート、イコール、オレンジ、カセット、クリーム、グループ など
	-3 (0)	4		スタート、ビタミン、レポート、リポート
	-3 (-4)	5		イメージ、スイッチ、ポケット、レコード、ロケット
	-4	36		ウーマン、オーバー、カーテン、カロリー、キャプテン、キャンバス など
	-4 (0)	2		エプロン、サークル
	-4 (-2)	1		アイデア
5	-4 (-3)	2	シリーズ、スリッパ	
	△	3	9.29	アイディア
	0	3		バイオリン、ボールペン、ランニング
	-3	9		アルバイト、オートバイ、クリスマス、コンクール、パーセント、キログラム など
	-3 (-4)	1		クラシック
-3 (-5)	1	パイロット		

	-4	4		カレンダー、コレクション、スピーカー、プレゼント
	-4 (-3)	2		スケジュール、プレゼント
	-5	7		インタビュー、コンサート、コンセント、ネックレス、ハイキング など
	-5 (-3)	2		エチケット、ピクニック
6	-3	11	7.37	コンクリート、サンドイッチ、ジャーナリスト、スーツケース キロメートル など
	-4	7		アナウンサー、エレベーター、オーケストラ、コンピューター、
	-5	3		ウエートレス、ストッキング、トレーニング
	-5 (-3)	1		クリーニング
	-6 (-3)	1		アクセサリ
7	-3	2	2.56	カセットテープ、プラットホーム
	-4	6		エスカレーター、オートメーション、コミュニケーション、タイプライター、センチメートルなど
8	-4	1	0.64	テープレコーダー
	-3	1		ガソリンスタンド
9	-5	1	0.32	スーパーマーケット
合計	-	312	100	-

上記の表4は、N2のモーラ別のアクセント核の特徴を示した表である。N2の外来語のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、第一に、3モーラ(38.46%)の-3型が94個、第二に、4モーラ(34.29%)の-4型が36個、第三に、6モーラ(7.37%)の-3型が11個であった。外来語の例は下記に示す。

① 3モーラの-3型の外来語の例:

ウール、オイル、オフィス、カード、カーブ、カバー、カメラ、カラーなど

② 4モーラの-4型の外来語の例:

ウーマン、オーバー、カーテン、カロリー、キャプテン、キャンバス など

③ 6モーラの-3型の外来語の例: コンクリート、

サンドイッチ、ジャーナリスト、スーツケース、キロメートル など

3モーラの「タイヤ」は、NHK(2015)では、平板型であるが、「タイヤ」は新明解(1994)では、語末の一3拍目にアクセントを置く。「ピアノ」はNHK(2015)では平板型であるが、新明解(1994)では《古は「ピアノ」「ピヤノ」》のように2つの表記があり、アクセントにも英語の影響が現れている例である。4モーラの「ハンカチ」は、NHK(2015)では、平板型と語末から一2拍目にアクセントが置かれているが、新明解(1994)には「ハンカチ」のアクセントは、語末から一3拍目に置かれ、「ハンカチーフ」のように表記にも差異が見られ、アクセントにも英語の影響が現れている例である。また、「コーヒー」の場合は飲物で、「カフェ」は店の位相上の違いのある例も外来語には見られる。5モーラの平板型の「バイオリン」は原語によく近い「ヴァイオリン」の表記がよく使われている。6モーラの語末から数えて一4拍目の「オーケストラ」は特殊拍ではなく、スは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし一4拍目にアクセント核が来ている例である。

4.2. 日本語母語話者の外来語アクセントの生起

インフォーマントのN1の世代別のモーラ別分析を表5に示す。この表5は語末からアクセント核の位置を示したものである。

〈表5〉 インフォーマントのN1の発音の分析表

モーラ	NHK アクセント辞典		合計	JF1 20代	JF2 20代	JF3 50代	JF4 50代
	ア核	個数					
2	-2	9	10	10	10	10	10
	△	1		-	-	-	-
3	0	4	81	5	5	5	5
	-2	3		5	5	4	4
	-3	69		71	71	72	72
	-3(0)	4		-	-	-	-
	△	1		-	-	-	-
4	0	14	59	17	17	17	17
	0(-4)	3		-	-	-	-
	-2 (-3)	1		1	1	1	1
	-3	11		12	11	11	12

	-3 (-4)	1		-	-	-	-
	-4	26		28	29	29	28
	-4 (0)	2		-	-	-	-
	-4*	1		1	1	1	1
				モーテル JLPTにはある NHK表記なし			
5	0	5	34	5	5	6	4
	0 (-5)	1		1	1	1	1
	-3	12		14	14	14	13
	-3 (-2)	1		-	-	-	-
	-3 (-5)	1		-	-	-	-
	-4	3		6	6	5	5
	-4(0)	1		-	-	-	-
	-5	7		8	8	8	11
	-5 (0)	1		-	-	-	-
	-5 (-3)	2		-	-	-	-
6	-2	2	15	-	-	2	2
	-3	12		14	14	12	12
	-6	1		1	1	1	1
	-6 (-3)	-		-	-	-	-
7	-3	2	7	3	3	3	3
	-3 (-4)	1		1	1	1	1
	-4	3		3	3	3	3
	△	1		-	-	-	-
8	-3	1	2	1	1	1	1
	4	1		1	1	1	1
9	-5	1	2	1	1	1	1
	-4	1		1	1	1	1
合計	—	210	210	210	210	210	210

表5は、インフォーマントのN1の発音の分析表である。インフォーマントは、東京で生まれ、他の地域での生活歴のない20代の若年層2名と50代の中年層2名とした。20代JF1と

JF2は韓国語を専攻している女性で、50代のJF3とJF4は日本語教師の女性である。

インフォーマントのN1の発音のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、第一は、20代のJF1とJF2は、3モーラの-3型が71個(33.81%)で、50代のJF3とJF4は、72個(34.29%)であった。第二に、20代の4モーラの-4型がJF1は28個(13.3%)とJF2は29個(13.80%)で、50代はJF3は29個(13.80%)と、JF4は28個(13.33%)であった。第三に5モーラの-3型がJF1とJF2とJF3は、14個(6.66%)で50代のJF4は13個(6.19%)であり、第四に6モーラの-3型がJF1とJF2は14個(6.66%)で、50代のJF3とJF4は、12個(5.71%)と、特に差異は現れなかった。辞典のアクセントと差異が現れた外来語は、2モーラの頭高の外来語で辞典と違う外来語は「パンク」であった。「パンク」は非平板化¹⁰⁾した外来語である。3モーラの平板型の外来語で1つ差異が見られたものは「ラベル」で、20代の2人が平板型で発音していることが観察された。

インフォーマントのN2の世代別のモーラ別分析を表6に示す。この表6は語末からアクセント核の位置を示したものである。

<表6> インフォーマントのN2の発音の分析表

モーラ	ア核	個数	合計	JF1 20代	JF2 20代	JF3 50代	JF4 50代
2	0	-	22	-	1	-	-
	-2	22		22	21	22	22
3	0	9	120	20	20	19	13
	0 (-3)	4		-	-	-	-
	-3	94		96	97	97	103
	-3 (0)	7		-	-	-	-
	-2	3		4	3	4	4
	-2 (-3)	1		-	-	-	-
	△	2		-	-	-	-
4	0	24	107	31	31	28	28
	0 (-2)	1		-	-	-	-
	0	1		-	-	-	-

10) 非平板化については、「これは平板型からは拍の型への変化を意味し、平板型と他の型がゆれている語も含まれている。」と李(1997)で述べている。李香蘭(1997)「平板化する日本語のアクセント:外来語を中心に」『日本文化学報』2, 韓国日本文化学会, p.64.

	(-3)						
	0	2		-	-	-	-
	(-4)						
	-2	1		4	4	4	4
	-2						
	(0)	1		-	-	-	-
	-3	24		35	34	36	35
	3						
	(0)	4		-	-	-	-
	-3						
	(-4)	5		-	-	-	-
	-4	36		37	38	39	39
-4							
(0)	2	-	-	-	-		
-4							
(-2)	1	-	-	-	-		
-4							
(-3)	2	-	-	-	-		
△	3	-	-	-	-		
5	0	3	29	3	3	3	3
	-3	9		12	12	13	13
	-3						
	(-4)	1		-	-	-	-
	-3						
	(-5)	1		-	-	-	-
	-4	4		4	4	5	5
-4							
(-3)	2	-	-	-	-		
-5							
(-3)	7	10	10	11	11		
-5							
(-3)	1	-	-	-	-		
6	-3	11	23	10	10	11	11
	-4	7		9	9	8	8
	-5	3		4	4	3	3
	-5						
	(-3)	1		-	-	-	-
-6							
(-3)	1	-	-	1	1		
7	-3	2	8	2	2	2	2
	-4	6		6	6	6	6
8	-3	1	2	1	1	1	1
	-4	1		1	1	1	1
9	-5	1	1	1	1	1	
合計	-	312	312	312	312	312	312

表6において、インフォーマントのN2の発音のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、第一は、20代の3モーラの一3型がJF1は96個(30.77%)で、JF2は97個(46.19%)で、50代のJF3は、97個(46.19%)で、JF4は103個(49.04%)であった。第二に、20代の4モーラの一4型がJF1は37個(11.86%)とJF2は38個(12.18%)、50代のJF3は39個(12.5%)と、JF4は39個(12.5%)であった。続いて4モーラの一3型は、20代のJF1は35個(11.22%)で、JF2は34個(10.89%)で、50代のJF3は36個(11.54%)で、JF4は35個(11.22%)である。4モーラの0型は、20代のJF1とJF2は31個(9.94%)で、50代のJF3とJF4は、28個(8.97%)であった。5モーラの一3型は、20代のJF1とJF2は、12個(5.71%)で、50代のJF3とJF4は、13個(6.19%)であった。5モーラの一5型は、20代のJF1とJF2は、10個(3.21%)で、50代のJF3とJF4は、11個(5.23%)であった。

4.3. インフォーマントのアクセントのゆれに見られる平板化

インフォーマントのN1の発音にゆれが現れた語彙を表7に示す。この表7は語末からアクセント核の位置を示したものである。

<表7> インフォーマントのN1の発音にゆれが現れた語彙表

語彙	NHK	JF1 20代	JF2 20代	JF3 50代	JF4 50代
パンク*11)	0	0	-3	-3	0
ボルト*	0	-3	0	0	0
ラベル	-3	0	0	-3	-3

上記の表7では、20代と50代のインフォーマントのアクセント核のゆれは、NHK(2015)のアクセント核の表記の記述との差異が現れた。N1で、差異が現れた語彙のうち3モーラは3個で、非平板化した外来語であるパンクはJF2、JF3は非平板化で発音し、非平板化した外来語であるボルトは、JF1が非平板化で発音し、NHK(2015)のアクセント核の表記の記述との差異が現れた。

インフォーマントのN2の発音にゆれが現れた語彙を表8に示す。この表8は語末からアクセント核の位置を示したものである。

11) パンク*,ボルト*,タイヤ*,リットル*は非平板化した外来語である。

〈表8〉 インフォーマントのN2の発音にゆれが現れた語彙表

語彙	NHK	JF1 20代	JF2 20代	JF3 50代	JF4 50代
ゼミ	-2	-2	0	-2	-2
グラス	-3	0	0	0	-3
グラム	-3	0	0	0	0
シヨップ	-3	0	-3	-3	-3
ズボン	-2(-3)	-2	-3	-2	-2
タイヤ*	0	-3	0	0	0
ダイヤ	-3(0)	-3	0	-3	-3
ブラシ	-3	0	0	0	0
ナイロン	-4	0	-4	-4	-4
モーター	-4	-4	0	-4	-4
ユーモア	-4	-4	-4	-2	-4
リトル*	0	0	0	-2	0

表8のN2では、ゼミはJF2は平板型、グラスは、JF1、JF2、JF3が平板型、グラムは辞書表記は-3型であるが、インフォーマント4名が平板型を示している。シヨップは、-3型であるが、JF1は平板型、ズボンは-2(-3)であるが、JF1、JF3、JF4は-2型で、JF2は-3型である。非平板化した外来語であるタイヤは、JF1は-3型で非平板化で発音し、JF2、JF3、JF4は0型である。ダイヤは-3(0)で、JF2は0型でF1、JF3、JF4は-3型である。ブラシは-3型であるが、4人とも0型である。ナイロンは-4型で、JF1だけが0型である。モーターは-4型で、JF2だけが0型である。ユーモアは-4型で、JF3だけが-2型である。非平板化した外来語であるリトルは、JF3だけが-2型である。

上の表7、表8から、アクセント核の表記と比較により、インフォーマントの発音には、李香蘭(1997)で指摘した結果と同じく、本研究においても世代差を問わず平板化と非平板化が確認された。

5. 結論

前研究(2016)では、NHK(1993、2015)と明解(1994、2014)の4冊のアクセント表記に見られるアクセント核を調査し、各モーラの分析を行った。本研究では、前回の分析調査に現れた外来語のアクセント核の比較を行うために、東京出身の若年層と中年層の2世

代をインフォーマントとして発音の分析調査を実施した。資料に用いた外来語はJLPT語彙のN1、N2の外来語である。では今回の研究をまとめる。

N1とN2の外来語の結果から、李(1992)の研究では、「2拍、3拍語は原則的で頭高型が大部分をしめ、4拍語以上は—3拍目に特殊拍やアクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語が多いため、—4型、—5型が多く現れている。」と述べているように、3モーラと4モーラには頭高が多く、4拍語以上の5モーラには—3型が6モーラには—5型が多く現れていることが確認できた。また、4モーラの「チャンネル」は—3拍目に特殊拍があり、アクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語であるため、—4拍目にアクセント核があると同時に平板型でもある。「タレント」、「フィルター」は語末から数えて3拍目が特殊核ではないが、同アクセント核で—4拍目にアクセント核がある。「アクセル」「カクテル」の場合は、クは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし—4拍目にアクセント核が来ている。「タイトル」も、語末から数えると3拍目が特殊音ではないが、1つ前にずらし—4型と平板型アクセントになっている。この「アクセル」、「カクテル」は、クが無声音化し特殊音ではないが、1つ前にずらし—4型の頭高型になっている。また、「アクセル」、「カクテル」、「タイトル」などのアクセントは、元々の英語の発音の影響を受けていると推測できた。また、「ユニフォーム」はJLPTは「ユニホーム」と語彙表記されているが、両アクセント辞典では「ユニホーム」と「ユニフォーム」の2つの表記があり、両アクセント核は5モーラで、語末から数えて—5拍目と、—3拍目にアクセントを置き、「コンタクト」のアクセントも同様であると言える。このことは、松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)の研究で、「東京方言の外来語のアクセントは、特殊拍ではなく、特殊拍が属している音節全体に置かれ、そのアクセントによってもたらされる下降は、各音節の中心にある母音の直後に出現する。」として、語末から数えて—3拍目の拍を含む音節にアクセントを置くことが確認できた例である。

第二に、20代と50代のインフォーマントが発音したアクセントは、NHK(2015)のアクセント核の表記とにゆれが現れた。そのゆれが現れた外来語は、非平板化した「パンク」・「ボルト」「ダイヤ」「リットル」を含める15個であった。このアクセント核の表記と発音の比較の結果、アクセント核の表記と比較により、インフォーマントの発音には、世代差を問わず平板化と非平板化が確認された。また、若年層と中年層の差異より、東京出身の同年層でも同外来語のアクセント核に差異が見られた。その要因は明確ではないが、東京出身であっても、インフォーマントの両親や環境からの影響と推測する。

今後の研究としては、ゆれの現れた外来語において、インフォーマントを増やし、デー

ターの正確性を確認する必要がある。また、李(2016)では、韓国人日本語学習者のカタカナ語の発音の知覚率に影響を与えるのは①特殊拍の感覚の問題、特に語末の「一」の発音の難しさ、②促音の感覚の欠如と同時に促音の挿入現象、③母音の無声化の困難さ、④母語の影響、⑤拍数の長さ、⑤「テイ・ファ・フォ」などの音節の知覚の問題を挙げているように、実際に韓国人日本語学習者はどのように発音するのかを分析し、東京出身者の発音のアクセント核との比較を課題としたい。

【参考文献】

- 李香蘭(1992)「日本語における外来語のアクセントの拍数別特徴」『東北大学文学部日本語学科論集』2号 東北大学文学部日本語学科, pp.13-24.
- _____(1997)「平板化する日本語のアクセント:外来語を中心に」『日本文化学報』2, 韓国日本文化学会, pp.51-69.
- _____(2000)「日本語における外来語アクセントの最近50年間の変化」『日本語学研究』2, 韓国日本語学会, pp.221-231.
- _____(2009)「日本語アクセント核のずれの要因について: 外来語の音韻的な要因を中心に」『日本文化研究』29, 동아시아일본학회, pp.27-41.
- _____(2016)「日本語学習者のカタカナ語の発音知覚率」『日本文化学報』68, 韓国日本文化学会, pp.237-256.
- 金田一春彦・秋永一枝(1994)『明解日本語アクセント辞典』三省堂, pp.1-806.
- _____(2014)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂、序 pp.3-6, pp.1-994.
- 木部暢子(2010)「方言アクセントの誕生」『国語研プロジェクトレビュー』2.国立国語研究所, pp.23-35.
- Kubozono,H.(1996)“Syllable and Accent in Japanese : Evidence from Loanword Accentuation.”『音声学会会報』第211号, 日本音声学会, pp.71-82.
- 国際交流基金(2006)『日本語能力試験出題基準』凡人社, pp.14-33, pp.54-117.
- 坂本清恵(2005)「外来語の音節構造とアクセント」『アクセント史資料研究会[編]論集』アクセント史資料研究会出版, pp.1-24.
- 佐藤大和(2002)「外来語における音節複合への区分化とアクセント」『音声研究』第6巻第1号, 日本音声学会, pp.67-78.
- 塩田雄大(2011)「『NHK日本語発音アクセント辞典』改訂調査結果にもとづく作業方針の検討—アクセント辞典改訂専門委員会(第5回)から」『放送研究と調査』61(3):NHK放送文化研究所メディア研究部, pp.102 - 113.
- 鈴木美恵・崔英淑(2016)「日本語における外来語のアクセントの分析—JLPT語彙の外来語を中心に—」『日本語文学』73号, 日本語文学会, pp.69-95.
- 田中真一(2008)『リズムアクセントの「ゆれ」と音韻・形態構造』くろしお出版, pp.77-134.
- 田野村忠温(1999)「外来語アクセントにおける原語の発音の関与について—4モーラ以下の語を中心に—」国立国語研究所編『日本語科学』5, 国書刊行会, pp.67-88.

- 日本放送出版協會(1993)『NHK編日本語發音アクセント辞典』NHK出版, pp.1-990.
日本放送文化研究所編(2015)『NHK編日本語發音アクセント辞典』NHK出版, pp.1-1023 付録 p.10.
松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)『日本語アクセント入門』三省堂,
pp.124-144.

논문 투고 일자 : 2016. 06. 30.
논문 심사 일자 : 2016. 07. 25.
게재 확정 일자 : 2016. 07. 27.

 <要旨>

東京出身の世代別外来語のアクセントの比較分析

-JLPT語彙を中心に-

鈴木美恵・崔英淑

鈴木・崔(2016)では、『NHK編日本語発音アクセント辞典』(1993、2015)と『明解日本語アクセント辞典』(1994、2014)の4冊のアクセントを比較分析した。本研究では、日本語母語話者らの外来語のアクセント核の実現様相を調べるために、東京出身の若年層と中年層の2世代のインフォーマントの発音を分析した。N1とN2の外来語のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数は、N1は3モーラの-3型が69個(32.85%)で、N2は3モーラの-3型が94個(30.12%)であった。次に、インフォーマントのN1の発音の分析では、3モーラの-3型は20代においては71個(33.81%)、50代においては72個(34.29%)で、N2では3モーラの-3型が20代においてはそれぞれ96個と97個と1個の違いがあり、50代においては97個(31.08%)および103個(33.01%)と同年層であっても同外来語のアクセント核に違いが見られた。また、20代と50代のインフォーマントのアクセント核のゆれは、辞典の記述とは少々の違いが現れた。N1では3モーラは3個、N2では12個のゆれが現れ、20代においても50代においてもそれぞれ平板化が見られた。この結果、若年層と中年層の間の違いよりも、東京出身の同年層であっても同じ外来語のアクセント核の違いが大きいことが明らかになった。その要因は明確ではないが、東京出身であっても、インフォーマントの両親や環境からの影響があるものと推測される。また、今回の研究で、4モーラの「チャンネル」は-3拍目に特殊拍があり、アクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語であるため、-4型にアクセント核があると同時に平板型でもある一方で、「タレント」、「フィルター」は語末から数えて-3拍目は特殊核ではないが、同アクセント核で-4型にアクセント核があること、ならびに「アクセル」「カクテル」の場合は、クは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし-4型にアクセント核が来ることも確認できた。

Japanese Loanword Accent Analysis of Japanese Native Speaker

Suzuki, Mie · Choi, Young-Sook

Suzuki・Choi(2016) research compared and analyzed 4 Japanese dictionaries :NHK Japanese Pronunciation Accent Dictionary(1993, 2015), Meikai Japanese Pronunciation Accent Dictionary(1994,2014). This study analyzed Japanese Native pronunciation of a woman in her 20s and in her 50s from Tokyo to research expressing types when the Japanese Native speakers pronounced Japanese loanword Accent. Japanese loanwords for testing are Japanese loanwords of JLPT N1 and N2. The result shows the difference between pronunciation of the Japanese Native speakers and Japanese Pronunciation Accent Dictionary. To make generalizations about this study, this study need to extend experimenters. Furthermore, this study leave a matter in building a database for education of Koreans studying Japanese Accents.